



両社が11月1日から新発売する高速シートシャッター

大手メーカーと提携

島根の 小松電機 高速シャッターで

「小松電機産業」(本社・島根県八束郡八雲村東岩坂、小松昭夫社長、資本金九百五十万円)はこのほど、同社が開発した自動の高速シートシャッターについて、「文化シャッター」(本社・東京都板橋区志村、川田懋社長、資本金二十二億五千万円)と技術、販売提携した。同製品が文化シャッターの協力でさらに便利で省エネ型のもので改良されたもので、十一月一日から両社の販売ルートで新発売する。高速シートシャッターは、製品や資材などを搬出入する

手動式の二つに分けていた制御装置を両方式併用の同一制御装置にした▽普通のシャッターとの併設を標準設計した一など。従来の屋内の保温効果に照明費用の削減効果が加わり、より省エネ型の製品となった。

機会の多い工場の出入り口に適用したもので、高速で開閉することにより、作業の高効率化や、屋内の冷暖房の熱を外部に逃がさず、ホコリの流入を防ぐなどの効果を持つ。超音波のセンサーが車の接近を感知して自動的に開閉するシステム。小松電機が昨年八月に商品化し、販売していた。

主な改良点は▽作業の安全性確保と屋外からの採光を妨げないため、透明度が高く防炎効果のあるポリエチレン系のシート(透明防炎PVCシート)を採用した▽自動式と

改良された高速シートシャッターは、小松電機では従来通り「門番」、文化シャッターでは「エア・キーパー」の商品名で売り出される。設計は間口最大五・五メートル、高さ最大四・一メートルまで可能で、市販価格は間口四メートル、高さ三・六メートルの場合、百六十三万二千円(工事費は除く)。

小松電機の小松社長は「文化シャッターの全国販売網に乗せることができる」、「文化シャッターの望月専務は「主にシャッターとの併設販売をしたい」とそれぞれ提携のメリットを話しており、両社合わせて年間二千台を販売目標にしている。